

アノマリーカレンダーの使い方

アノマリーカレンダーには、4つの情報が載っています。

1. 1年の値動きの傾向
2. 月別カレンダー
3. 月ごとの値動きの傾向
4. 日ごとの値動きの傾向

月ごとの値動きの傾向及び、日ごとの値動きの傾向は月別カレンダーの下に載っています。

月別カレンダーには○日後の勝率が載っています。

単品でアノマリーカレンダーをお買い上げいただいた場合は、3日後の勝率が分かるカレンダーとなります。

セットでお買い求めの場合は、1日後から7日後まで7つのカレンダーとなります。

各カレンダーの構成は次の通りになります。

○表紙

○1年間の値動きの傾向

○月別カレンダー 1月から12月まで

カレンダーの見本をご覧ください。

○表紙



A 銘柄コード

B 株式の個別銘柄名

C 1取引日後から7取引日後まで、どのカレンダーかの判別

○1 年間の値動きの傾向



1 年間の値動きの傾向が折れ線グラフで載っています。

この銘柄では過去 20 年間は 1 年間の値動きの傾向が上記の様になっているということです。

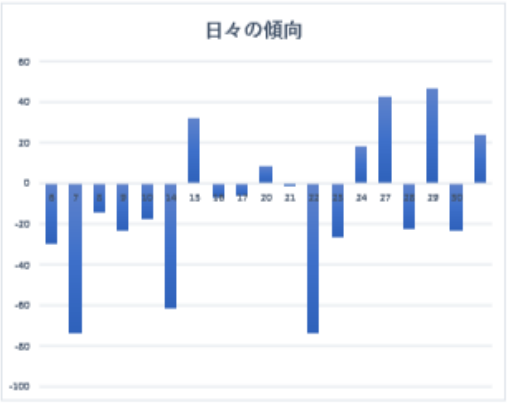
1 月から 2 月にかけては下落する傾向があり、2 月中旬から 5 月までは上昇する傾向がある。

5 月から 10 月にかけては下落する傾向があり、10 月から年末にかけて上昇する傾向があるということです。

○月別カレンダー 1月から12月まで

3 取引日後の上昇確率 2020 1 January 銘柄コード 0000

日	月	火	水	木	金	土
29	30	31	1 元日	2	3	4
5	6 35.0%	7 35.0%	8 55.0%	9 35.0%	10 55.0%	11
	7 13	7 12	11 9	7 13	11 9	
12	13 成人の日	14 40.0%	15 55.0%	16 65.0%	17 55.0%	18
		8 12	11 8	13 5	11 9	
19	20 40.0%	21 35.0%	22 30.0%	23 60.0%	24 65.0%	25
	8 11	7 13	6 14	12 7	13 7	
26	27 60.0%	28 50.0%	29 45.0%	30 55.0%	31 55.0%	1
	12 8	10 10	9 11	11 8	11 9	



上記は1月のアノマリーカレンダーです。

上部には日ごとに勝率が掲載されています。

また、勝率の下部には勝敗が掲載されています。

カレンダーの下部には2つのグラフが掲載されています。

まず上部のカレンダーをご覧ください。

A 3 取引日後の上昇確率 2020 1 January 銘柄コード 0000						
日	月	火	水	木	金	土
29	30	31	1 元日	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
	35.0%	35.0%	55.0%	35.0%	55.0%	
12	7 13 13 成人の日	7 12	11 9	7 13	11 9	18
		40.0%	55.0%	65.0%	55.0%	
		8 12	11 8	13 5	11 9	
19	20	21	22	23	24	25
	40.0%	35.0%	30.0%	60.0%	65.0%	
	8 11	7 13	6 14	12 7	13 7	
26	27	28	29	30	31	1
	60.0%	50.0%	45.0%	55.0%	55.0%	
	12 8	10 10	9 11	11 8	11 9	

ある銘柄の1月のアノマリーカレンダーです。

Aは、「3取引日後の上昇確率」となっています。

このカレンダーは当日から3取引日後の勝率及び勝敗が載っていることを表しています。

6日の欄をご覧ください。

(B) 上昇確率が35%となっています。

1月6日は1月における第1取引日です。

この数値は第1取引日の株価と第1取引日から3取引日後の株価を比べて上昇した割合がどのくらいあったのかを表示しています。

この銘柄の場合、第1取引日の株価と第4取引日の株価を比べた場合、過去20年間のうち7年は第4取引日の株価の方が高かったということになります。

13年は第4取引日の株価の方が低かったということになります。

(C) 勝率の下には2つの数値が載っています。

これは過去の勝敗数を表しています。

この銘柄の場合、過去20年間において、1月第1取引日の株価が第4取引日の株価よりも低い年が7回、高い年が13回あったということを表しています。

つまり、3取引日後に上昇しているのが7回、下落しているのが13回ということです。

7勝13敗ですので、勝率は35%となります。

勝率35%ということは3取引日後に株価は下落した年の方が多か

ったということです。

勝率が100%になっていると過去20年間、すべての年で3取引
日後に株価が上昇していたということです。

数値が95%になっていれば、過去20年間の内、19年は上昇して
いたということです。

過去20年間で下落したのは1年だけということになります。

勝率が0%になっている場合は、過去20年間、すべての年で3取引
日後に株価が下落していたということです。

数値が5%になっていれば、過去20年間の内、19年は下落してい
たということです。

過去20年間で上昇したのは1年だけということになります。

勝率が95%ということは、過去20年間で19回上昇したという
アノマリーがあるということになります。

このようなアノマリーがあるのであれば、今年も上昇する可能性が
高いと考えることが可能です。

勝率の高い日に買えば儲かる可能性が高いということになります。

逆に勝率の低い日というのは、敗率が高いということになります。

つまり、勝率の低い日（敗率の高い日）に空売りをすると儲かる可能性が高いということになります。

3 取引日後の上昇確率 2020 1 January 銘柄コード 0000

日	月	火	水	木	金	土
29	30	31	1 元日	2	3	4
5	6 35.0%	7 35.0%	8 55.0%	9 35.0%	10 55.0%	11
	7 13	7 12	11 9	7 13	11 9	
12	13 成人の日	14 40.0%	15 55.0%	16 65.0%	17 55.0%	18
		8 12	11 8	13 5	11 9	
19	20 40.0%	21 35.0%	22 30.0%	23 60.0%	24 65.0%	25
	8 11	7 13	6 14	12 7	13 7	
26	27 60.0%	28 50.0%	29 45.0%	30 55.0%	31 55.0%	1
	12 8	10 10	9 11	11 8	11 9	



カレンダー下部左側には、その月の値動きの傾向が折れ線グラフで載っています。

カレンダー下部右側には、その月の日々の傾向が棒グラフで載っています。

左側の月の傾向を見ると1月上旬は株価が高く、中旬にかけて下落し、月末にかけて少し戻す傾向があるということがわかります。

スイングトレードをするのであれば、1月上旬からは空売りをし、中旬近辺で利食いをする。そして、中旬に買い下旬に売るという戦略を立てることができます。

右側の日々の傾向では棒グラフで表示されています。

過去20年間において第1取引日(6日)は寄り付きと大引けの価格差を平均すると、下落する傾向があるということになります。

第2取引日(7日)は第1取引日(6日)よりも下落幅が大きかったということです。

このグラフを見ると、デイトレードをする際に、買いが優勢の日なのか、売りが優勢の日なのかを知ることができます。

★1 取引日後から 7 取引日後まで7つのカレンダーを使ったアノマリーの見つけ方

3 取引日後だけのカレンダーを使ってもアノマリーを見つけることは可能ですが、1 取引日後から 7 取引日後まで7つのカレンダーを使うと更に信頼性の高いアノマリーを見つけることができます。

次のカレンダーをご覧ください。

3 取引日後の上昇確率 2020 12 December 銘柄コード

日	月	火	水	木	金	土
29	30	1 50.0%	2 50.0%	3 55.0%	4 45.0%	5
		10 8	10 9	11 9	9 11	
6	7 55.0%	8 45.0%	9 50.0%	10 45.0%	11 40.0%	12
	11 9	9 10	10 10	9 11	8 11	
13	14 55.0%	15 55.0%	16 55.0%	17 55.0%	18 65.0%	19
	11 9	11 9	11 8	11 9	13 7	
20	21 65.0%	22 80.0%	23 80.0%	24 70.0%	25 70.0%	26
	13 7	16 4	16 4	14 5	14 6	
27	28 56.3%	29 50.0%	30	31	1 元日	2
	9 6	7 7	0 0	0 0		

12 月 22 日の勝率は 80.0%です。

12 月 23 日の勝率も 80.0%です。

12 月 24 日の勝率は 70.0%です。

12 月 25 日の勝率も 70.0%です。

12 月 28 日の勝率は 56.3%です。

12 月 29 日の勝率は 50.0%です。

このことからわかるのは、12 月 22 日から 3 日後の株価は上昇している確率が高い。23 日から 3 日後、24 日から 3 日後、25 日から 3 日後も株価が上昇している可能性が高いということになります。

しかし、28 日から 3 日後には上昇確率が下がります。

つまり、20 日すぎから株価は上昇し、年明けの大発表会までは上昇が続くが、大発表会の翌日からは上昇が鈍くなるということです。

このような傾向があるのであれば、12 月 22 日の寄り付きで買って、翌年の大発表会の寄り付きで売れば利益になる可能性が非常に高いということです。

次の図をご覧ください。

1 取引日後の上昇確率 2020 12 December 銘柄コード

日	月	火	水	木	金	土
29	30	1 45.0%	2 50.0%	3 50.0%	4 35.0%	5
		9 10	10 10	10 9	7 12	
6	7 45.0%	8 45.0%	9 55.0%	10 35.0%	11 55.0%	12
	9 9	9 11	11 9	7 12	11 9	
13	14 45.0%	15 45.0%	16 40.0%	17 35.0%	18 60.0%	19
	9 10	9 11	8 11	7 13	12 7	
20	21 1取引日後 50.0%	22 70.0%	23 45.0%	24 65.0%	25 70.0%	26
	10 9	14 6	9 9	13 7	14 6	
27	28 50.0%	29 57.1%	30	31	1 元旦	2
	8 7	8 6	0 0	0 0		

20	21	22 2取引日後 65.0%	23 65.0%	24 70.0%	25 65.0%	26
	13 7	13 7	13 7	14 6	13 7	
27	28 56.3%	29 64.3%	30	31	1 元旦	2
	9 6	9 5	0 0	0 0		

20	21	22 3取引日後 80.0%	23 80.0%	24 70.0%	25 70.0%	26
	13 7	16 4	16 4	14 5	14 6	
27	28 56.3%	29 50.0%	30	31	1 元旦	2
	9 6	7 7	0 0	0 0		

20	21	22 4取引日後 75.0%	23 70.0%	24 75.0%	25 60.0%	26
	15 3	15 5	14 6	15 5	12 8	
27	28 50.0%	29 57.1%	30	31	1 元旦	2
	8 8	8 6	0 0	0 0		

20	21	22 5取引日後 75.0%	23 70.0%	24 70.0%	25 55.0%	26
	15 4	15 4	14 6	14 6	11 9	
27	28 56.3%	29 57.1%	30	31	1 元旦	2
	9 6	8 6	0 0	0 0		

20	21	22 6取引日後 65.0%	23 70.0%	24 60.0%	25 50.0%	26
	14 6	13 6	14 5	12 8	10 9	
27	28 50.0%	29 57.1%	30	31	1 元旦	2
	8 8	8 6	0 0	0 0		

20	21	22 7取引日後 75.0%	23 60.0%	24 60.0%	25 50.0%	26
	14 5	15 5	12 8	12 8	10 10	
27	28 56.3%	29 50.0%	30	31	1 元旦	2
	9 7	7 7	0 0	0 0		

12 月の 1 取引日後から 7 取引日後までのカレンダーを重ねています。

すべてのカレンダーの 12 月 22 日を赤枠で囲っています。

1 取引日後の勝率は 70.0%

2 取引日後の勝率は 65.0%

3 取引日後の勝率は 80.0%

4 取引日後の勝率は 75.0%

5 取引日後の勝率は 75.0%

6 取引日後の勝率は 65.0%

7 取引日後の勝率は 75.0%

すべての取引日後で 65%以上の勝率になっています。

このことから、12 月 22 日の寄り付きで買うと、7 取引日後までのいつ手仕舞いしても高い確率で利益になる可能性が高いということがわかります。

次の図をご覧ください。

1 取引日後の上昇確率 2020 12 December 銘柄コード

日	月	火	水	木	金	土
29	30	1 45.0%	2 50.0%	3 50.0%	4 35.0%	5
		9 10	10 10	10 9	7 12	
6	7 45.0%	8 45.0%	9 55.0%	10 35.0%	11 55.0%	12
	9 9	9 11	11 9	7 12	11 9	
13	14 45.0%	15 45.0%	16 40.0%	17 35.0%	18 60.0%	19
	9 10	9 11	8 11	7 13	12 7	
20	21 1取引日後 50.0%	22 70.0%	23 45.0%	24 65.0%	25 70.0%	26
	10 9	14 6	9 9	13 7	14 6	
27	28 50.0%	29 57.1%	30	31	1 元旦	2
	8 7	8 6	0 0	0 0		

20	21	22	23 65.0%	24 70.0%	25 65.0%	26
	13 7	13 7	13 7	14 6	13 7	
27	28 56.3%	29 64.3%	30	31	1 元旦	2
	9 6	9 5	0 0	0 0		

20	21	22	23 80.0%	24 70.0%	25 70.0%	26
	13 7	16 4	16 4	14 5	14 6	
27	28 56.3%	29 50.0%	30	31	1 元旦	2
	9 6	7 7	0 0	0 0		

20	21	22	23 70.0%	24 75.0%	25 60.0%	26
	15 3	15 5	14 6	15 5	12 8	
27	28 50.0%	29 57.1%	30	31	1 元旦	2
	8 8	8 6	0 0	0 0		

20	21	22	23 70.0%	24 70.0%	25 55.0%	26
	15 4	15 4	14 6	14 6	11 9	
27	28 56.3%	29 57.1%	30	31	1 元旦	2
	9 6	8 6	0 0	0 0		

20	21	22	23 70.0%	24 60.0%	25 50.0%	26
	14 6	13 6	14 5	12 8	10 9	
27	28 50.0%	29 57.1%	30	31	1 元旦	2
	8 8	8 6	0 0	0 0		

20	21	22	23 60.0%	24 60.0%	25 50.0%	26
	14 5	15 5	12 8	12 8	10 10	
27	28 56.3%	29 50.0%	30	31	1 元旦	2
	9 7	7 7	0 0	0 0		

すべてのカレンダーの12月23日を青枠で囲っています。

1 取引日後の勝率は 45.0%

2 取引日後の勝率は 65.0%

3 取引日後の勝率は 80.0%

4 取引日後の勝率は 70.0%

5 取引日後の勝率は 70.0%

6 取引日後の勝率は 70.0%

7 取引日後の勝率は 60.0%

22日の勝率と比べると全体的に勝率が落ちているのが分かります。

このことから、この銘柄は23日に買うよりも22日に買った方が、勝率が高いということになります。

しかし、22日に買うより23日の勝率が低いということは、22日に買った後、23日には株価が下がっている可能性が高いということになります。

では24日の欄を見てみましょう。

1 取引日後の上昇確率 2020 12 December 銘柄コード

日	月	火	水	木	金	土
29	30	1	2	3	4	5
		45.0%	50.0%	50.0%	35.0%	
		9 10	10 10	10 9	7 12	
6	7	8	9	10	11	12
	45.0%	45.0%	55.0%	35.0%	55.0%	
	9 9	9 11	11 9	7 12	11 9	
13	14	15	16	17	18	19
	45.0%	45.0%	40.0%	35.0%	60.0%	
	9 10	9 11	8 11	7 13	12 7	
20	21	22	23	24	25	26
1取引日後	50.0%	70.0%	45.0%	65.0%	70.0%	
	10 9	14 6	9 9	13 7	14 6	
27	28	29	30	31	1 元旦	2
	50.0%	57.1%				
	8 7	8 6	0 0	0 0		

20	21	22	23	24	25	26
2取引日後	50.0%	65.0%	65.0%	70.0%	65.0%	
	13 7	13 7	13 7	14 6	13 7	
27	28	29	30	31	1 元旦	2
	56.3%	64.3%				
	9 6	9 5	0 0	0 0		

20	21	22	23	24	25	26
3取引日後	50.0%	80.0%	80.0%	70.0%	70.0%	
	13 7	16 4	16 4	14 5	14 6	
27	28	29	30	31	1 元旦	2
	56.3%	50.0%				
	9 6	7 7	0 0	0 0		

20	21	22	23	24	25	26
4取引日後	50.0%	75.0%	70.0%	75.0%	60.0%	
	15 3	15 5	14 6	15 5	12 8	
27	28	29	30	31	1 元旦	2
	50.0%	57.1%				
	8 8	8 6	0 0	0 0		

20	21	22	23	24	25	26
5取引日後	50.0%	75.0%	70.0%	70.0%	55.0%	
	15 4	15 4	14 6	14 6	11 9	
27	28	29	30	31	1 元旦	2
	56.3%	57.1%				
	9 6	8 6	0 0	0 0		

20	21	22	23	24	25	26
6取引日後	50.0%	65.0%	70.0%	60.0%	50.0%	
	14 6	13 6	14 5	12 8	0 9	
27	28	29	30	31	1 元旦	2
	50.0%	57.1%				
	8 8	8 6	0 0	0 0		

20	21	22	23	24	25	26
7取引日後	50.0%	75.0%	60.0%	60.0%	50.0%	
	14 5	15 5	12 8	12 8	10 10	
27	28	29	30	31	1 元旦	2
	56.3%	50.0%				
	9 7	7 7	0 0	0 0		

すべてのカレンダーの12月24日を緑枠で囲っています。

1 取引日後の勝率は 65.0%

2 取引日後の勝率は 70.0%

3 取引日後の勝率は 70.0%

4 取引日後の勝率は 75.0%

5 取引日後の勝率は 70.0%

6 取引日後の勝率は 60.0%

7 取引日後の勝率は 60.0%

安定した勝率になっているのが分かります。

ここまで22日、23日、24日と3つの日の勝率を見てきました。

これらのことから次のように推測することができます。

22日に買うと勝率は高いが、23日の1取引日後の勝率が45%と低い
ため、不安定な動きになる可能性が高い。

23日に買うと1取引日後の勝率が45%と低い
ため買いづらい。

24日に買うと安定した勝率で取引ができる可能性が高い。

つまり、24日から翌年の大発会までは上昇のバイアスある
ことがわかるのです。

これだけ、顕著なバイアスが出ているのであれば、24日に買うと利益になる可能性が高いと言えるでしょう。

1取引日後から7取引日後のアノマリーカレンダーを使用すると、このように1週間程度のバイアスを調べる事が可能になります。

すべてのカレンダーにおいて、勝率の高い日が載っている場合は上昇のバイアスがあると考えられます。

逆にすべてのカレンダーにおいて、勝率の低い日が載っている場合は、下落のバイアスがあると考えられるのです。

つまり、上昇バイアスのある期間は買い、下落バイアスのある期間は空売りをすれば利益になる可能性が高いということです。

複数の取引日のカレンダーを使うとこのようなアノマリーを見つける事が可能になります。

強いアノマリーを見つけることができれば有利なトレードを行う事が可能になります。

株式投資を有利に行うために、アノマリーカレンダーをご利用ください。